

## 身近な人が結核と診断された方へ

身近な方が結核と診断され、「えっ、結核？」と不安になられた方も多いでしょう。  
でも、安心してください。  
正しい知識と健康管理で結核は防ぐことができます。  
ご心配なことがありましたら、いつでもご相談ください。

### 中部厚生センター 保健予防課

(旧 上市保健所)

TEL 472-1234



### 結核とはどのような病気なのでしょうか

結核とは、結核菌が体の中に入ることによって起こる病気です。

重症の結核患者さんがせきやくしゃみをするると飛沫（しぶき）と一緒に周囲に結核菌が飛散します。それを周囲の人が吸い込むことにより感染の危険が生じます。

発病すると始めは、せき、たん、発熱等の症状が出ますが、風邪の症状に似ているため、発見が遅れることがあります。

2週間以上せきが続いたら、病院、診療所等の医療機関を受診しましょう。

結核は発病すると治療に時間がかかる病気ですが、「治らない怖い病気」ではありません。病気の際は気も弱くなりがちですから、周りの人は患者さんをぜひ支えてください。

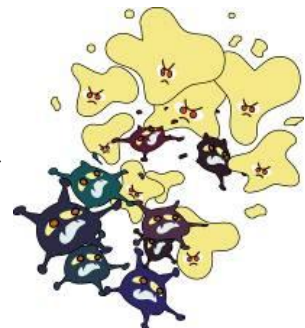
### 結核に感染することと発病することは違います！

結核菌を吸い込んでも、鼻やのどで結核菌が止まれば感染しません。菌が肺にたどり着き、そこで増殖しはじめた状態を「うつった（感染した）」といいます。

感染後2か月ほどすると、免疫システム（体を守る力）が成立し、結核菌の増殖をくい止めます。

そして多くの場合免疫が勝ち、結核菌を小さな病巣に閉じこめて、せきやくしゃみをして外に出ることはありません。したがって、他の人に感染させることもありません。

一般的には感染した人のうち、約8割はこのまま発病することなく健康に過ごします。



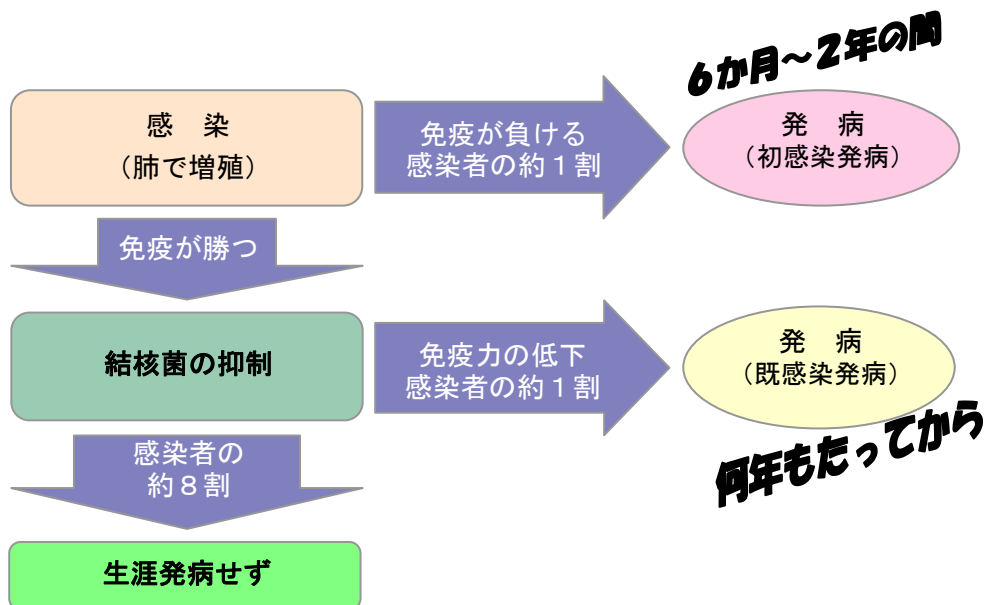
結核に感染しても結核菌を外に出しているわけではないので、周囲の人にうつす恐れはありません。

## 発病するのはどんな時？

結核の侵入に対して免疫の働きが十分ならば、増殖を抑えられます。

発病するのはそのときの体調、栄養状態などで運悪く免疫が弱まっている人のようです。発病する場合でも、結核菌の増殖は遅いので、感染してすぐに発病するわけではありません。6か月から2年の間に発病する人がほとんどです。

しかし、感染後何十年もたってから、免疫によって抑えられていた結核菌が、糖尿病や高齢化などによって、免疫力が低下したときに活動を開始し、発病する場合があります。高齢者の多くはこのような形で発病しています。



## なぜ接触者健診が必要なのでしょう。

結核を発病している人や感染している人を早期に発見するため、患者さんの家族や身近な人を対象に、接触者健診を行います。

患者さんのたんに含まれている結核菌が多いほど、また近くで話すなど接触の程度が密接なほど、結核に感染する機会は多くなります。

厚生センターでは

- ① 患者さんのたんに含まれている、結核菌の量
- ② 周りの人の年齢、既往症、職業
- ③ 接触の状況

などによって接触者健診の対象者や内容を計画して実施します。

内容としては、「クオンティフェロン検査」（以下「QFT検査」という。）「胸部エックス線検査」「ツベルクリン反応検査」などを行います。

## 接触者健診で行われる検査とは？

標準的な検査は下記のとおりです。

### 【ツベルクリン反応検査】

ツベルクリン液を注射し、48時間後に発赤の大きさを測り、結核の感染を調べます。

BCG接種をしていると反応が大きくなることもあります。

### 【QFT検査（血液検査）】

結核の感染を調べます。

BCG接種の影響なしに検査ができます。



ツベルクリン反応検査とQFT検査には、感染しても約8週間は検査結果が陽性とならない期間があります。この時期を考慮しながら検査を行います。

### 【胸部エックス線検査】

QFT検査では、感染時期はわからないため、過去に感染を受けた方が多い世代に対しては、QFT検査は行わず胸部エックス線検査で結核の発病を確認します。

## 胸部エックス線検査とは？

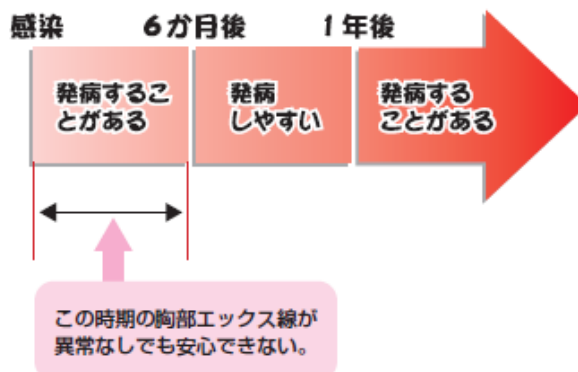
結核が発病しているかどうかを調べる検査です。発病している場合、結核菌による肺炎や空洞が肺の中にどのくらい広がっているかなど、肺の状態を見ることができます。

結核に感染した場合、発病しやすいのは感染後6か月から2年の間が最も多いと言われています。

その期間、必要により胸部エックス線検査のスケジュールを厚生センターが計画します。

計画された健診は毎回必ず受けましょう。受けられなかった時や転勤等で職場、学校又は居住地が変わるときには、厚生センターまで連絡してください。

また、せき、たん、発熱などの自覚症状が2週間以上続くときは、健診を待たずに医療機関を受診してください。



## 潜在性結核感染症とは？

結核に感染していますが、結核の症状はなく、今後、発病する恐れがある状態です。発病を抑えるために、6ヶ月間内服治療します。

この内服についても医療費公費助成の対象になります。

服薬中、特別な生活の制限はありません。

また、発病しているわけではなく、他の人に感染させることもありません。

しかし、結核は過労や強いストレスを感じる生活が続いたり、糖尿病などがあり、免疫力が低下している時に発病しやすくなります。

また、発病を抑えるための内服も、不規則になったり中断してしまうと、発病を抑えられなかったり、薬が効かない菌（薬剤耐性菌）を作ってしまうます。

感染した結核菌が耐性菌である場合は、必要に応じて服薬内容も変更されます。薬は最後まで欠かさずに飲みましょう。

## 結核の治療とは？

結核を治すためには、あなたの結核菌に効果のある薬を複数組み合わせ、6ヶ月以上の必要な期間、規則正しく服薬することが大切です。

治療開始後、2週間～1ヶ月服薬を続けると、ほとんどの方の症状は改善され、人に感染させる恐れも少なくなります。ここで服薬を中断したり、不規則な服薬をすると、症状が悪化したり、薬に対する耐性ができて、薬が効かなくなったりします。

重症の場合、1年以上の服薬治療や手術が必要となることもあります。

長期間、薬を忘れずに飲み続けることは誰にとっても難しいことです。

厚生センターでは確実な服薬のための支援も行っていますので、ぜひ、一緒に治療の完了を目指しましょう。

## 患者さんを暖かく迎えてください。

結核に感染していても発病していない人は、ほかの人に感染させることはありません。

潜在性結核感染症の人は、発病しない限り、他の人には感染させません。発病した人も、薬を確実に飲んでいれば、感染性は2週間程度で少なくなります。

患者さんが学校や職場に戻ってきた時は、他の人に結核が感染する心配はありません。

患者さんを暖かく迎えてください。

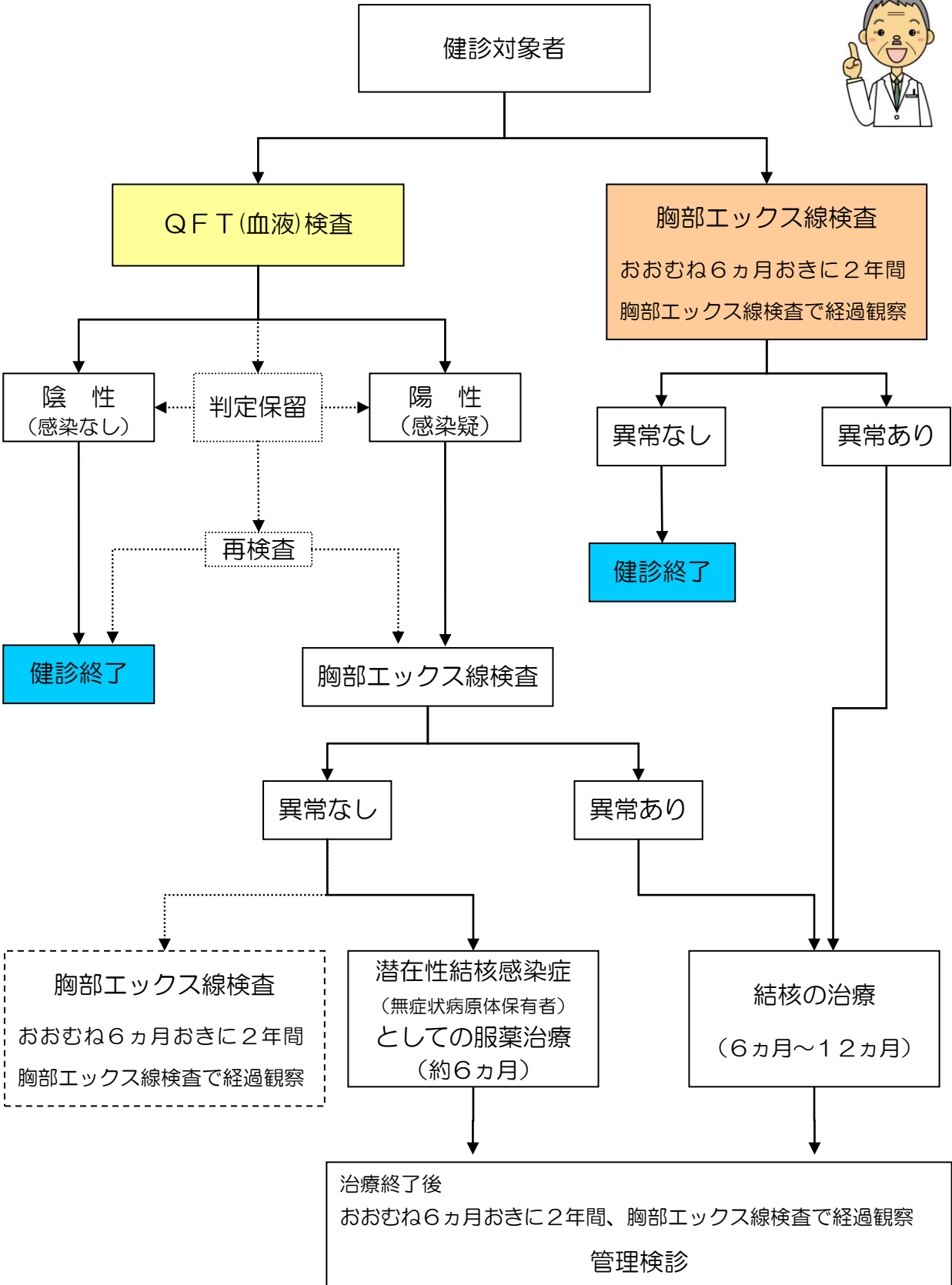
また、家族や友人が結核でも本人が健康であれば、本人から他の人に感染させることはありません。

多くの人が結核やエイズ、ハンセン病等の病気による社会の偏見に悩んでいます。病

気によって、その人の尊厳は変わるものではありません。安心して治療ができるよう支えていきましょう。

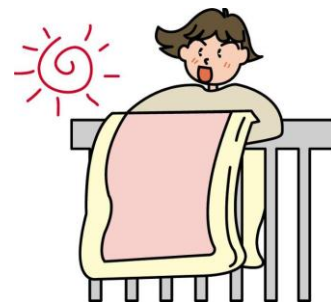


# 接触者健診の進め方



## 患者さんのふとんや食器、使った部屋は？

菌を出している方の使っていたふとんは、日光に干します。食器は普通の洗浄で大丈夫です。手でふれても感染することはありません。部屋は十分な換気が大事ですから、窓を開け放して外気を取り入れてください。



中部厚生センターでは、住民の皆さんの健康で生き生きとした生活を支援しています。結核の患者さんの治療を確実に終了するために、服薬のお手伝い、療養相談、治療終了後の健診、患者さんの家族や周囲の方々の健診等を行っています。

また、結核の治療に対しては医療費の一部を公費で負担する制度があり、その申請窓口は厚生センターです。

何か心配なことがありましたら、ご相談ください。

### 富山県中部厚生センター 保健予防課

(旧 上市保健所)

TEL 472-1234

〒930-0355 上市町横法音寺 40

